

6月25日(木)

## 白糠町と連携し学校林で森林教室

6月25日(木)、白糠町立茶路中学校の全校生徒16名を対象に、白糠町役場と連携して森林教室を行いました。

初めにふれあいセンターからは「森のおいたち」や「森の働き」などを描いた7枚のパネルを利用し、森の果たす役割を学んでもらいました。白糠町役場経済課長からは町の取組であるヤナギの植栽や「バイオエネルギー」資源にヤナギを利用する構想などの紹介がありました。

その後、校舎と隣接する学校林で樹木の名前や特徴を覚える実習を行いました。学校林には、チョウセンゴヨウ・アカエゾマツ・ネコヤナギ・オヒョウ・ヤチダモ・カツラ・オニグルミなど樹木の種類が豊富で、生徒達はいつも見ている樹木に気づかない特徴があることを学んだと思います。また、オヒョウやサトウカエデといった葉の形が珍しい樹木もあり、印象深い森林教室になったのではないのでしょうか。

(自然再生指導官 國井)



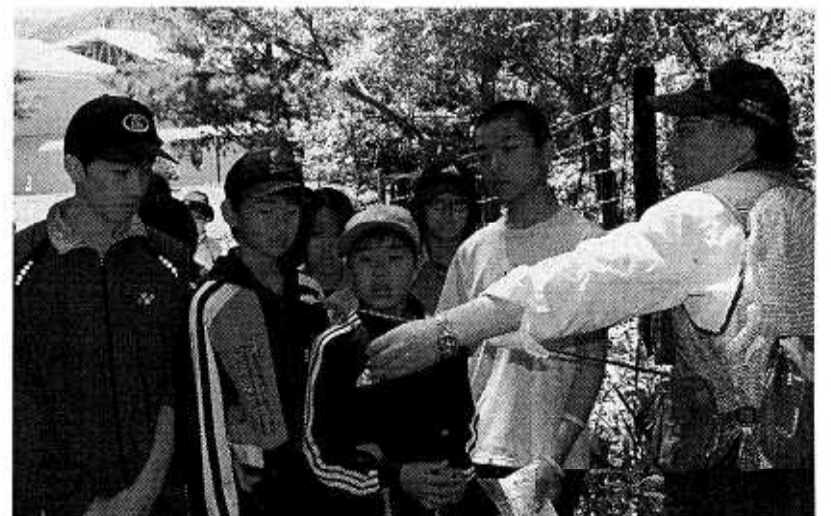
パネルを利用した学習



学校林での実習

【白糠】茶路中学校(佐藤博之校長)は25日、全校生徒16人が学校林を観察しながら森林の役割について学んだ。同校の総合的な学習の時間の年間テーマは「環境」。この日は北海道森林管理局釧路湿原森林環境保全ふれあいセンター(釧路市千歳町)の國井進自然再生指導官と町役場から松尾芳徳経済課長が来校した。國井指導官は「森は生きている。微生物や昆虫、鳥や動物といった多くの生物のすみかになっている」とした上で、天然林と人工林の違いをはじめ、二酸化炭素を吸収すること、森林が土砂崩れや洪水を防いだり、防風林・防雪林としても役立つことを強調。松尾課長は、町が今年度から力を注ぐヤナギの植栽について「カラマツやポプラと同じく成長が早い木で、食料と競合しないバイ

### 茶路中生徒 指導官の説明に聞き入る



学校林でユーモアを交えた國井指導官(右)の説明に聞き入る生徒たち

### 森林の役割学ぶ

オエタノール燃料としても注目を集めている」と取り組を紹介した。続いて同校の隣で20数年

の広さを誇る学校林で観察した。國井指導官が自身のヤチダモやヤマモミシ、昔はアイヌ民族が皮を進める。(河辺由記子)

織維にして布を織ったといわれるオヒョウや、同校に一本だけ生育するカナダ産の珍しいサトウカエデといった木々の特徴を挙げながら解説。生徒たちは真剣な表情で聞き入っていた。同校では7月に町の廃棄物処理についての出前授業を行い、2学期からはそれぞれの課題を決めて調べ学習を進める。

- 釧路町
  - ▽中体連バスケットボール大会 総合体育館、9時
- 厚岸町
  - ▽あつけしあやめまつり▽おはなし会 情報館、11時
- 浜中町
  - ▽太陽市場▽パソコン・ネット学ぼう 総合文化センター、9時▽絵本らんど・おはなしタイム 同、11時
- 標茶町
  - ▽ねむの木ダンスサークルパーティー 農業者トレーニングセンター、18時30分▽お父

6月27日付け釧路新聞朝刊

